

「全民アイドル」から「全民公敵」へ

— 肖戦の「粉丝事件」に関するネット世論の変化について —

LU Aoxue

現在、アイドルとファンとの関係は大きく変化している。中国でもアイドルファンを中心としたファン文化が浸透している。ファン、アイドル、ソーシャルプラットフォームが一緒になって、「飯圈(ファンコミュニティ)」と呼ばれる独自の生態システムを形成しているからである。現在のプラットフォームは、そのスピード、膨大な情報量により、多くのファンが集まり、時間や空間、職業や年齢を超えて飯圈を形成している。ファンは、アイドルへの共通の憧れを「愛」と呼んで、ファン活動を積極的に行って、豊かなファン経済の原動力となっている。

一方、ネットの多様化、思想の独自性、ネット参加者自身の違い、また資本の影響に加えて、複数の要因によってネット世論の複雑性が深まり、結果として世論の無秩序な展開をもたらしている。本論文では、この問題に焦点を当て、ファン、アイドル、メディアなどの要素がネット世論の方向性をどう左右するかを明らかにしたい。

2020 年、肖戦というアイドルの男性をめぐるファンの事件が発生した。2019 年 6 月、耽美小説を原案とするドラマ『陳情令』が放送された。中国の放送政策が原因で、小説ではボーイズラブだった主人公 2 人の関係性が、ドラマでは親密な友人関係に改編されていた。主人公を演じた肖戦と王一博は、このドラマで一躍有名人になった。そして、2 人を主人公にした同人小説が大量に登場し、その中で『下墜』という同人小説が事件を引き起こした。

2020 年 2 月 24 日、『下墜』の作者(肖戦と王一博の CP が好きなファン)が Weibo で、小説の最新章を掲載した AO3(海外の二次創作サイト)と LOFTER(中国の同人創作サイト)のリンクを発表した。同人小説の中では、肖戦の実名を使い、主人公を性同一性障害に悩むセックスワーカーとして描いている。また小説の筋書きとしては、性的描写が多数含まれている。このため、肖戦の唯ファン(肖戦のみが好きなファン)の不満が引き起こされ、「肖戦の名誉が損なわれる」、「わいせつな表現が未成年に危害を及ぼす」などの理由で、小説と小説の作者の通報を始める。その結果、AO3 は中国でアクセス不可能になって、LOFTER などはサイトでの同人に関する内容がすべて削除された。怒ったファンたちは、最初は同人小説を告発して、次第に同人小説を載せるプラットフォームに批

判の矛先を転向した。ところが、肖戦の唯ファンの行為は、CP ファン、同人ファン、同人ファンに同情する人々の不満を引き起こして、肖戦本人を非難する運動が始まった。「肖戦なぜ黙る」、「ファンの行為は、アイドルの責任になる」などの理由で、ネット世論はさらにコントロールできない事態となっていた。1年後、肖戦は Weibo で謝罪文を発表し、事件は漸く一段落した。

この事件は、冒頭で述べた新しい飯圏のシステムの影響力の大きさを端的に示している。肖戦のファンの事件を例に分析して、ファンの具体的な行動がどのように世論を誘導しているのかを明らかにできると考えられる。

本研究では、KH Coder による予備的な分析を行った上で、インタビュー調査を行った。ファンの事件を知っている、あるいは関わったことがあるなど、異なるアイデンティティを持つ 10 名の対象者を選び、インタビューの語りをもとに考察を深めていった。対象者の基本属性を含めて、9 つの質問項目に基づいて質問し、事件発生の要因や世論の変化との関係を把握した。

これらの分析から、事件悪化の最も重要な原因は、多数のコミュニティを直接、間接的に取り込むことで、世論がエスカレートしたことであることを明らかにした。事件を通じて、関わったコミュニティは、唯ファン、CP ファン、同人ファン、黒ファン、そして「路人」(ファンでない人)に区別できる。また、複数のアイデンティティを絡めたファンや、途中でアイデンティティを切り替えたファンもいた。そのため、人々がネットで最終的に議論していたのは、事件自体の話題ではなく、別のことに転化していた。人々のエモーションも同じで、加害者を見つける、被害者に同情するだけではなく、ただ感情を撒き散らすことになった。このように非常に分散された特徴が、ネット世論を二極化の道へさらに追い込んでいく。

また、事務所や資本の操作とあいまって、ネット環境は極めて感情的で非合理的なものとなっている。今日の飯圏において、ファンとアイドルの交流は通常、計画的、組織的に行われ、ファンの自発性だけに頼る純粋な活動は原始的で小規模なものになりかねない。肖戦の事務所が、ファンの行動やネット上の世論に関与する可能性は否定できない。そして、ネット世論の主戦場である Weibo というプラットフォームも非難を免れることはできない。対立意見は常に流量の源でお金にもなっているから、多くの人が意見を発表し、そして対立を引き起こしに行く。自由な表現はビジネスになってしまい、ネット世論をさらに拡大させていくのである。

最後は、マスメディアの過失も明らかにした。報道・発信された情報そのものが不正確であったり、マスメディアの意図的な誘導があったりする。このような場合、人々は誤報を受動的に受け入れて感情が煽られ、その感情があるレベルに達すると、受動から能動に変化し、世論の形成に参加する。人々は、こうした誤報の増幅器となり、世論の引き裂きと社会的対立を激化させる。

そのため、事件自体の判断が実際の軌道と乖離し、結局すべてがカーニバルになっていた。この非合理的な感情の渦の中で、アイドル、ファン、資本、そして一般ユーザー、各コミュニティは、カ

カーニバルの参加者であると同時に、カーニバルの犠牲者でもある。